



フィールド実習後のフォローアップ授業の様子

【草の根技術協力プロジェクトの日本研修が決定！】

新型コロナウイルス感染症パンデミック前の2019年10月に採択されたJICAの草の根技術協力「パーツ大学における「住民ニーズに基づく保健実践」のための教育強化プロジェクト」。2020年6月に開始予定が延期となり、その後、感染状況がどうなるかまったく見込みのないまま2020年9月に開始しました。そうは言ってもお互いの行き来ができるわけでもなく、オンラインで東ティモールのカウンターパートとやりとりするだけの期間が続きました。インターネット環境が厳しい東ティモールとのコミュニケーションは不自由なことが多く、できることは限られていました。2021年3月、東ティモール入国時や日本再入国時の隔離などまだ海外渡航の条件が非常に厳しかった中、石本事務局長がプロジェクト最初の渡航を果たし、その後約半年ごとに渡航することで、プロジェクトを少しずつ進捗させてきました。

そして、ついに、草の根技術協力プロジェクトでも、短期招聘が可能となりました。2022年10月6日から10月17日の予定で、パーツ大学公衆衛生学部から3人の先生を招いて、JICA中部センターで研修を行います。BiPH現地職員のMarcosさんもファシリテーターとして同行します。プロジェクト計画時、日本研修はスタートアップの位置づけでしたが、3年間のプロジェクト実施期間の既に後半に入り、より具体的にプロジェクト目標達成を見据え、計画し直した研修内容となっています。

今回の研修目的「地域保健データを活用した保健実践のための教育力を向上する」を果たすべく、事務局、理事が講師をつとめるほか、4人の外部講師もお招きし、施設見学、フィールド見学も行います。同時に、「BiPHてらこや」などで交流イベントを企画しています。交流イベントの詳細は決まり次第メールなどでお知らせします。

なお、JICA中部センターでは、東ティモール独立20周年を記念したパネル展が開催される予定です。（9月下旬から1か月程度）お近くにお越しの際はぜひJICA中部まで足をお運びください。

【日本研修:来日する皆さんをご紹介します】



Oscarさんは保健行政・政策が専門です。パーツ大学公衆衛生学部の教育全般の責任者として、学部長はじめ教職員から信頼されています。Santiagoさんは環境保健が専門です。公衆衛生学部のフィールド実習の責任者でもあり、実習の計画立案・地域住民との調整・学生指導のとりまとめを担当しています。Leonardoさんは健康統計学専攻の専攻長で、データマネジメントを専門としています。BiPH現地職員のMarcosさんは、パーツ大学公衆衛生学部の卒業生です。プロジェクト事前調査の時からプロジェクトに関わっています。

いずれの皆さんも今後の学部教育、ひいては未来の公衆衛生の人材育成を担う人たちです。

【独立20周年の東ティモール】

5月20日は東ティモールの独立(主権回復)記念日です。今年は独立20周年という節目の年にあたり、かつ、新大統領就任も重なったため、日本のメディアでも大きく取り上げられました。

東ティモール新大統領 単独インタビュー ASEAN早期加盟に意欲

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20220519/k10013632501000.html?fbclid=IwAR0zyAApC6eB2CD43HliUFBfxra2JZizmW6sni2mj1pxcYHwGnwDysgTsA>

前日夜は新大統領の就任式が行われ、翌日の独立記念式典ともどもテレビで生中継されました。20時頃に始まった独立&就任を祝うイベントはお祭り騒ぎの盛り上がりでしたが、就任式が始まる22時には一転して厳粛な雰囲気になりました。各国の要人が見守る中、ラモス・ホルタ新大統領が署名&スピーチ。各国に配慮されたスピーチ内容ならば、これからこの国のかじ取りを担う責任感が感じられました。

翌朝は9時前から大統領府で独立記念式典が始まりました。大統領はスピーチの途中で外で見守っている一般市民に向かって「この場所は私一人には大きすぎる、皆に開放したい、一緒に祝おう」と呼びかけました。老若男女が集う様子は楽しげで、見ているこちらも幸せな気分になりました。

20年前は、国連の協力のもと、衛星通信とゼネレーターによる発電で、ディリでの式典の様子が地方に伝えられました。今は、自分たちの手で自分たちの記念日を全国で祝っています。このように平和を謳歌できることも、東ティモールのみなさんの20年間の努力の賜物だと思います。

式典の様子はこちらでご覧いただけます。(提供: MONJO VIDEO WORKS)

【祝独立20周年】東ティモール: 主権回復(独立)20年記念式典・新大統領就任式典東ティモール・ディリ 2022年5月19日・20日

<https://www.youtube.com/watch?v=HkbNMzZwltM>

【「Helping Health Workers Learn」翻訳完成間近！】

予定より大幅に時間がかかってしまいましたが、「Helping Health Workers Learn」の翻訳書「学ぶことは変わること: 自分と地域の力を引き出すアイデアブック」が校了しました。もうしばらくで、みなさんのお手元に取っていただけるようになります。販売サイトなどはメールマガジンなどでお知らせします。

【勉強会「てらこや」報告】

*毎回の勉強会は、ウェブサイトとFBで詳しくご報告しています。

1月28日:尊厳ある生のために

話題提供:安藤明夫さん(元中日新聞編集委員)

この日は安藤さんが取材を通して出会ったお二人(荒井里奈さんと押富俊恵さん)のエピソードを通して、「限られた命の時間を自分らしく生きる」ことについてお話しいただきました。参加された方の多くは病気や障害の当事者、医療従事者、福祉関係の支援者で、中には生前の押富さんと親交のある方もいらっしゃいました。

安藤さんのお話で特に印象に残ったのは、お二人の発信力。お二人の生きざまをロールモデルとして紹介することで、当事者には自分の思いを伝えることの大切さを、支援者には当事者の思いを受け止め全人的に支援することの必要性を伝えたかったのだと思います。勉強会後には「アクティブな患者さんたちを紙面で紹介していくうえで『自分はそのなふうにはできない』という思いを抱く方がいらっしゃることは事実です。そうした反応も含めて、当事者のロールモデルを紹介していくことが大切かなと思っています。」と答えてくださいました。記者人生の転機は阪神淡路大震災とご家族の存在とのこと。安藤さんが書く記事は温かく、当事者に寄り添う感じがしていました。その原点に少し触れた思いです。

荒井さんと押富さんについての安藤さんの記事は以下でお読みいただけます

【連載 舌はないけど】自身を生き切った、荒井里奈さん(中日新聞Web)

<https://www.chunichi.co.jp/article/410439?rct=shitahanaikedo>

「押富さんが挑んだバリアー」(中日新聞Web) <https://www.chunichi.co.jp/article/328644>



3月25日:患者と医療者と社会の架け橋に ~当事者セラピストの活動~

話題提供:山田隆司さん((作業療法士、CMT友の会代表、NPO法人にこまる所長)

山田さんは障害者で難病患者で作業療法士、つまり、支援を受ける当事者であり支援者でもある「当事者セラピスト」として活動しています。勉強会では、山田さんが子供のころに感じた周囲の人との違い、作業療法士というセラピストになった経緯、そして現在に至るまでを、ワークショップを交えながらお話しいただきました。

山田さんのメッセージは「バリチャイを楽しむ」つまり「ダメな自分もダメな社会もいいじゃん、って思えばいい」です。世の中のバリア(物理、心理、情報、制度)の障壁はたぶんなくならない、でも、バリアがあることを楽しめるくらいにまで減らすことはできる、そのためには、まず自分をありのままに認め、そして同時に社会のダメなところも認めてあげることから始めよう、というものでした。

このように書くと、山田さんはとても前向きな人に感じますが、いろいろな出来事や人との関わりを通して、時にはポジティブに、また時にはネガティブに揺れる心と向き合ってきたとのこと。そのような経験から来た上記のメッセージは、軽やかでありつつも、ずっしりとした重みを感じました。

CMT友の会について知りたい方はこちらから <http://www.j-cmt.org/>

当事者セラピストについて関心のある方はこちらから

「わたころプロジェクト」 <https://note.com/watakor2020>

**ダメな自分もダメな社会も
いいじゃんいいじゃん
って思えばいいじゃん。**

●個人が変容する

主体性をもって自分の人生を歩むための変化
リハビリ・自立トレーニング、自己啓発、旅行、マインドセット、趣味の発見、タイムマネジメント、ライフプランの変更、断り方

●社会が変容する

無条件で人生に主体性を発揮できるための変化
社会構造の変化、社会意識の変化、D&I、バリアフリー、ユニバーサル、マイノリティ、サービス利用、環境整備、優待を廃止

Mission(使命)

当事者が「ありのまま」で
自身の「やりたい」を叶える
ことができる**共生社会の実現**

当事者の声を医療者へ
医療者の声を当事者へ
そして、これらの声を社会へ

患者と医療者と社会の架け橋に

【今後の勉強会予定】

回	日時	テーマ	担当
7 8	7月29日(金) 18:30-20:00	東ティモール草の根技術協力事業報告～公衆衛生学部生の現状調査から～	BiPH
7 9	9月21日(水) 18:30-20:00	Activities of supporting homeless people in Nagoya (名古屋のホームレスの人びとへの支援活動)	レジナルド・サロンガさん (名古屋市立大学 高等教育院 語学講師)
8 0	10月15日(土) 13:00-15:00	東ティモールの公衆衛生教育(仮)	パーツ大学公衆衛生学部教員
7 9	11月25日(金) 18:30-20:00	調整中	
8 0	1月27日(金)	調整中	

最新情報・お申込みはウェブサイトをご覧ください。

<http://plaza.umin.ac.jp/biph/study-meeting/>

参加費：BiPH会員500円/回(年会費と合わせてご請求します)

非会員1,000円/回(クレジットカード利用またはコンビニ払いの場合)、または500円/回(口座振込の場合)

*新型コロナウイルス感染症対策により、当面はオンライン（Zoom）で開催します。
状況によっては開催方法変更もありますので、どうぞご了解ください。

【「新型コロナに対する公正な医療アクセスを全ての人に！連絡会」について】

新型コロナウイルス感染症のパンデミックから2年半が経ちました。既に“ウイズコロナ”の時代に入ったとも言われていますが、この間、医薬品・医療技術への公平なアクセスが達成されたわけではありません。「新型コロナに対する公正な医療アクセスを全ての人に！連絡会」の活動は続いています。医薬品・医療技術への公平なアクセスは、今後発生する新しい感染症でも、慢性疾患・非感染症についても取り組み続けるべき課題です。

BiPHも団体としてこの連絡会に参加しています。参加する個人・団体は現在も募集中のことです。詳しくは以下をご覧ください。(ウェビナーの貴重な動画や資料も公開されています。)

「新型コロナに対する公正な医療アクセスを全ての人に！」連絡会

ご参加・ご協力の呼びかけ <https://aif.gr.jp/covid-19/network-covid19/>

連絡会の各種資料はこちらから <https://aif.gr.jp/covid-19/network-covid19/>



【編集後記】

4月28日～5月25日に3回目の東ティモール出張に行ってきました。1年前に比べて、水際対策もかなり緩和されていました。現地では新規患者数も減少し、落ち着きを取り戻しています。

今回の活動のメインは、パーツ大学公衆衛生学部の学生状況調査でした。調査そのものもさることながら、そのプロセスや結果を現地のみなさんと共有できたことは大きな成果だったのではないかと思います。日本研修にうまくつながることを祈ります。

【会員募集】

当会は活動にご賛同いただける皆様からの会費で成り立っています。ぜひ会員としてご支援ください。

会員の種別、払込先は以下の通りです。また、ご寄付も随時ありがたくお受けしております。

詳細は事務局までお問い合わせください。

個人正会員3,000円/年、個人賛助会員3,000円/年、法人会員30,000円/年

振込先：ゆうちょ銀行 00870-9-126227 シャ)ブリッジズインパブリックヘルス

会報「BiPHかわらばん」2022年7月号 (通算10号)

発行：一般社団法人Bridges in Public Health

代表理事：樋口倫代

〒467-0027 名古屋市瑞穂区田辺通1丁目22番地2

TEL：052-846-5878 E-mail：biph-adm@umin.ac.jp

URL：http://plaza.umin.ac.jp/biph

FB page：https://www.facebook.com/biph.adm/



BiPH
Bridges in
Public Health